

清 脩

会報^{せいしゅう}清脩 第46号 令和8年9月1日 飯能市退職校長会

退職校長会は何をする会か

会長 小見山 実

以前、知り合いから「退職校長会って何をする会なの？」と聞かれたことがあります。その時は、会員の交流や研修会のことなど思いつくままに話しましたが、あまり要領を得た説明になっていませんでした。

本会の会則には、会の目的として退職校長の「親睦」と「地域の教育への寄与」を掲げています。

「親睦」については、研修会や懇親会などに参加したり、会報への寄稿や作品を寄せることにより会員同士の交流を深めることができます。

そして、本会は組織として入間地区、埼玉県、全国の退職校長会とつながり、それぞれの慶弔規定により、慶祝、見舞い、弔慰などの福利厚生を担うという役割もあります。

では、「地域の教育への寄与」とはどういうことでしょうか。

会員の中には、特例任用により校長職を続ける方や引き続き教員として教壇に立っている方、初任者指導教員として後輩の指導に当たっている方、学習支援ボランティアとして活動している方等々、直接学校教育に携わっている方もおります。

また、保護司や人権擁護委員、社会教育委員、民生児童委員等で活躍している会員もおります。

飯能市退職校長会としても、年に一度の市長・教育長宛の要望書の中で「退職校長の豊かな体験と専門的知識・技

能を活かした学校教育・社会教育等の支援」のために意欲ある退職校長の活用への配慮を掲げています。

ところで、私達退職校長会は、会員自身の親睦や福利厚生にとどまらず、公的機関からの委嘱・要請による委員としての活動の他に、地域に貢献できる会であることが求められていると思っています。

私達は、校長経験者ということから地域から何らかの期待感を持つて見られていることも事実だと思います。多くの会員の皆さんが、地域の自治会や祭り、寺社、ボランティアの会などから役員を頼まれていることがこの期待感の表れかと思えます。

地域に貢献するということは、そこに暮らす住民の一人としての任務でもあると言えます。このような社会貢献も会則で示されている退職校長会の「地域の教育への寄与」と言えるのではないのでしょうか。

地域の中で地域と共に

私自身退職以来、自治会長をはじめ、地域の行事やお祭り、地区スポーツ協会、地域福祉推進組織、学校応援団、子ども見守り活動等々、頼まれるままに役を引き受けて地域活動を続けてきました。

中でも、昨年度相互研修会で発表させていただいた「原市場の森」づくりは、最後の勤務校が原市場中学校だったという縁から退職後十数年間続けてきた最も長い活動になります。（本紙六面「相互研修会」参照）

この原市場の森づくりの活動の一つ

に「中一の森」の活動支援があります。これは、例年十月に原市場中学校の一年生が学習林活用教育（「水と緑の学習」）の一環として行っている活動です。

はじめに原市場の森についてその歴史や地域の方の思いなどを学習してから山に行きます。山ではこれまでに先輩たちが毎年間伐をしてきた森を見て、整備を続けることの大切さを実感します。

そして、のこぎりの使い方を原市場の森を育てる会のボランティアの方々から指導され、実際に雑木を切ったり、下草を刈ったりして最後に体験したことを感想文にまとめます。

原市場の森づくりの活動を始めた時、この森が生徒たちの郷土愛の育成や地域の大人と交流ができる「ふるさと教育」の場になればと願っていました。

退職してから十五年間、原市場の森づくりの活動を通して、退職校長会の一員として「地域の教育への寄与」を続けてこられたことをたいへん感慨深く思います。

会員の皆様方も、これからも健康に留意され、機会がありましたら都合がつく限り「地域の教育への寄与」をお願いいたします。



春の「原市場の森」

賀 寿 顕 彰 者

古希

古希を迎えて尚、元気

神 田 俊 也

時の流れは早いもので、この度古希を迎えることができました。飯能市退職校長会様より記念品を頂き厚くお礼申し上げます。

教職生活43年、退職後はシルバ人材センターに登録し重い荷物運び・掃除等々色々な仕事をし、毎週のフレイル予防教室のサポーターも行いお年寄の方々に喜んで頂いています。また、野菜栽培教室で学んだことを活かして害獣・雑草と汗だくで闘い年間約30種類の野菜を育て、形味はともかく、子孫、親戚に配り食してもらっています。現職の頃はなかなか参加できなかつた公民館活動も市報等を見て積極的に参加し、現在はハーマニカ教室で下手な演奏に挑戦しています。最後に約40年近く続けた時には優勝もしたテニス、生涯スポーツと考え週4日は楽しんでいます。そのための体力強化策としてほぼ毎日のプール通い、このような忙しい日々ですが、漫然と日々を過ごさないよう寝る前に簡単な日記をつけています。三日坊主にならず10年も続いています。今後何気ない生活の中で、新たな変化や発見を楽しみ心豊かに過ごしていきたいと考えています。

最近の生活から

育てる喜び、挑む未来

斉 藤 国 明

初任者研修を担当して五年目、教員人生の第一歩を踏み出す初任者の成長に寄り添い、歩みを支えられる仕事に大きなやり甲斐を感じている。研修や日々の実践を通して自信を深め、子どもたちと真摯に向き合う教員へと成長していく姿が頼もしい。「教員になってよかった」と新年度への期待を胸に一年を締め括れるよう支援することを、何より大切な目標としている。

小さな庭で野菜づくりを楽しんでいる。六月、突然の雹で丹精込めて育てた野菜が大きな被害を受けた。しかし、傷ついた苗は再び芽吹き、小さな実をつけ始めた。その逞しい生命力に励まされた。

スポーツジムに通い始めて一年半。健康維持を目的に始めたが、今では体を鍛えること自体が楽しみとなり、生活の一部になっている。最近、格闘技系エクササイズ「ボディコンバット」も始めた。心身を鍛えるとともに、新しいことに挑戦する楽しさを実感している。

再任用終了まであと半年。これまで培ってきた知識や経験を生かし、今後も社会に貢献できるように努めたい。新しいことにも臆せず挑みたい。次のステージも楽しみである。

五感を研ぎ澄ます

岡 野 民 嗣

昨年家族の事情で、ウィーンを訪れる機会がありました。初めてのヨーロッパ、英語圏以外の国、ツアーでなく自力の移動などハードルも高く、「今さらこの歳になつて・・・」という気持ちもありました。

早速入国のドイツ語で面喰い、空港から市内までの移動の切符購入、乗る列車、乗換駅など戸惑いも多かったのですが、何とか目的の駅に着き、外へ出ると巨大な教会の姿が目の前に飛び込んできて圧倒されました。

その後のホテルのチェックインや、スーパードでの買い物、タクシーを拾うなどの体験も新鮮で、ヨーロッパの歴史的建造物や街並みなどの風景も加わり、まさに五感が研ぎ澄まされる体験の連続でした。

帰途のトランジットでもなかなかない体験をし、最後のヒマラヤ山脈を超えるフライトでは、窓の外や飛行機のカメラからの景色に興奮の連続でした。

たった3日の滞在でしたが「今さら」が「まだまだ」に変わる大きな実感を得ることができ、今後は海外でなくても、身近なものから五感を研ぎ澄ませる日々を送っていければと思っています。

再任用五年目の今！

菅 野 昌 司

定年退職して五年目となりました。退職時が所沢の上新井小の校長でしたので、教員生活の大部分を経験した飯能での再任用を希望しましたが叶わず再任用も所沢で仕事をさせていただいています。

一年目は林小で教務主任、二年目は特別支援学級の担任、以降は初任者指導教員として三年目を迎えました。この五年間多くの人と出会い現役の時ではできなかったような多くの経験ができました。特に拠点校指導教員としての三年間で十一校十五人の初任者を担当し自分自身も多くのことを学ぶことができました。また、折角、色々な学校に行っているのだからと本務校以外の学校の納会などにも参加し、学校毎の違った雰囲気味わっています。

プライベートではずっとやってきたサッカーのほか、箱根ランナーの息子の影響で始めたランニング、二十数年ぶりにまた始めたゴルフと、多くの方と一緒に体を動かすことを楽しんでいます。教員の仕事は今年度で区切りをつける予定ですが、これからも様々な人と一緒に、まだまだ人生楽しんでいきたいと思っています。

会員の声

老いても楽しみたい

佐藤 信弘

リタイアしてから、八人の孫の成長を楽しみに、普段は畑仕事、雑草との闘いの日々。そして趣味の写真を撮る生きがいになっている。カメラを持つと無になれる。過去を忘れる。沼田の一本桜、星峠の夜明け、大原の汐ふみ、浦佐の裸祭り等希望のみが湧いてくる。最近では、四大全国展に挑戦し、入選でもしようものならハッピーホルモンに包まれ、周囲に自慢し迷惑がられている。しかし、昨年あたりから、現地に出かけることが億劫になってしまった。歩き続けると足や腰が痛み、何よりもトイレの不安が増してきたのである。それでも、思い切つて出かけてみると、不思議にも何かしらの発見や感動を得る。全ては出かけなければ始まらないのである。行きついたことは、一つは欲張らないこと。あれもこれもではなく、これのみの一点集中型に。二つは備えあれば憂いなし、最悪の事を想定して備えだけは万全にする。二つの戒めをもち、外に出かけ、動き、見て、聞いて、ハッピーホルモンに包まれる、老いても趣味活動にと想いを託している。

天寿を全うす

澤田 清志

教育委員会にお世話になった折り、亡くなった校長先生の連絡が遅れたことで叙位叙勲の申請が出来なかったことがありました。ご本人からご家族への「この伝達」が無かったのか、葬儀で忙しい中でご家族が遅れてしまったのか？こればかりは、定年時の教委への速やかな連絡を忘れることなくお願い致します。

私ですが、この二月より風邪をこじらせてぐずぐずとしました。重ねて腰痛で現在も通院、弱気な発言が数度あったようで、妻より優しく「いざという時、誰に連絡をしたらいいの」と言われ、即日一覽表を作成したところです。「死」は怖いこと。ただ天命でもあり、誰にでも必ず訪れることです。七十三歳となり「まだ若い」と思っているものの足腰や記憶の衰えと、今回の体調不良に際し、より長寿を意識し、だからこそ健康的な生活と、一日一日を大切に生きたいと考えています。

※（参考）八十八歳での高齢者叙勲、死後に叙位の申請をします。死亡日を含めて八日以内に県へ多くの書類が届かなくてはなりません。出来るだけ速やかに連絡をお願いします。また、ご家族への伝達を再度お願いします。

新会員のことは

ご縁に感謝して

半田 貞晴

（日高市立武蔵台小中学校）
この度、飯能市退職校長会に新たに加えていただくことになりました。まずは、このような歴史と伝統のある会に迎えていただいたこと、心より感謝申し上げます。

私は、平成二年度、狭山市で教員人生をスタートしました。次に、入間市に異動し、現在は日高市で勤務しています。今年の三月に六十歳を迎えました。特例任用校長として、令和八年度は日高市の義務教育学校である武蔵台小中学校で勤務しています。同じ校舎に一年生から九年生までが在籍している学校であり、地域と共にある学校づくりに全力を傾注しています。しかしながら、日々新たな学びと反省の連続であります。子供たちのため、そして地域のために何ができるのか、自問自答を繰り返しているところです。

そのような中、本会に入会させていただくことは、諸先輩方のご経験やお考えに触れ、自分自身を高める大変貴重な機会であると感じています。まだまだ未熟者ではありますが、一日も早く皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

定期総会

令和八年度定期総会が四月二十五日（土）十時に、飯能市総合福祉センター二階視聴覚室で開催されました。

来賓として新井重治市長、中村力教育長、塚内素子校長会長をお迎えし参加者は三十五名でした。令和七年度の事業・決算の報告、令和八年度役員・事業・予算案等が承認されました。その後の賀寿顕彰会では、本年度古希を迎える方と米寿を迎える方二名のお祝いが行われました。

総会終了後、本年度から総合福祉センター二階に場所を移した「飯能市教育センター」の様子を見学しました。二階の既存の施設を改修し、事務室・研修室・杉っ子ルーム・相談室等、今まで同様の各部屋が設定されていました。

さらにその後は「暖らん」を会場とした懇親会が二十二名の参加者により盛大に開催されました。



故人を偲んで

浅見信先生を偲んで

細田 俊雄

浅見先生との出会いは教員二年目の昭和四十七年の春、教育研究会の国語主任研修会でした。

精明小学校ではお兄様の保夫先生にお世話になっていたので親しみを感じました。先生は中学校でしたが国語主任研修会ではいつも優しく声をかけてくださいました。

飯能市立図書館の読書感想文の審査員として一緒にさせて頂いたこともありました。

退職後は退職公務員連盟の幹事を先生と二人で勤めました。翌年から幹事長を任せられ多々ご指導を頂きました。飯能歌人会の仲間にも加えていただきました。その縁で令和五年三月に叙勲の祝賀会に招待を受けました。美紗子先生と並んでにこやかな姿が目に残り付いております。

先輩の叙勲を祝ふ宴には集いし人のあふる笑顔
きらきらと輝く衣装で指揮をする
届ける歌は災害の地へ

お二人からさらなるご指導を仰がなくてはと思っておりましたが、残念でなりません。どうぞ安らかに眠りください。

台掌

(令和七年六月二十三日 ご逝去)

正田佐市先生を偲ぶ

市川 義男

人生は「出会いの旅」だと思えます。戦後十年余、希望の灯が光となり始めたころ、青年教師だった正田先生に当時の赤沢小学校で出会い、国語を教える楽しさとか子どもとの触れ合いの面白さ等を日常の生活で教えて頂きました。あれから星霜の三十有余年経過して、社会の変化とともに学校も大きく変わったかの感です。

正田先生は、富士見小学校長で堅実、理論と実践の学校経営に邁進後、平成六年三月末で退職に。私も平成八年三月に精明小学校を退職し、日本で外国で気の向くま、「出会いの旅」をしました。が、心中あの正田先生との関わり不足を痛感していたのです。

でも、平成十六年五月末、電話の一言で「二人で行く車の旅」が実現したのです。久しぶりです。

ドライブは、一般国道の周遊可能地で山梨県。甲斐の歴史文化に触れて、夜は花水晶で温泉にゆつたりつかり、日本酒と肴を楽しむという内容。注ぎ手も来ました。

今顧りみれば、宿は勿論、立ち寄った「ぶどうの丘」「天目山麓の三代勝頼の古寺」も正田先生の心に残っているように思えます。

(令和七年十一月十九日 ご逝去)

武居富雄先生を偲んで

小久保 則之

武居先生を偲ぶ原稿をとうとう私が清脩に寄稿する時が来てしまいました。本当に寂しいです。

武居先生とは私が狭山中で狭山市中体連の事務局をしていた時です。その年、先生は狭山西中に校長として赴任され、狭山市中体連の会長（支部長）を受けてくださいました。中体連の行事は多く県大会に繋がる予選会、市独自の各種大会等それに伴う担当者会、準備会等先生は会長として毎回出席され会をまとめてくれました。それには今は無き人間学体協の幹事地区会長として、教職員体育大会の開催にも大変ご苦労された事を今でも思い出します。また入間、県の支部長、理事会にも毎回出席され、帰りには決まって食事でもして帰ろうと誘ってくれた事も昨日の事のように思い出されます。

その後先生は狭山の教育次長、教育長となり中体連とは関わりは無くなりましたが、市教委の学校訪問の際には中体連会長の時と変わらず親しく声を掛けて頂きその言葉に多くの励みを頂きました。今でもその事は忘れません。

先生との思い出一杯です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(令和八年一月十七日 ご逝去)

森田良久先生を偲んで

父を偲んで

山 寄 かおる

森田良久の長女、山寄かおると申します。

父は大正、昭和、平成、令和とゆつくり、ゆつたりと走り抜けて二〇二六年二月五日に百歳で天寿を全ういたしました。

生前賜りました御厚情に深く感謝いたします。

父とのドライブが大好きでした。楽しかった事、困った事、大切な話をする時はいつも父の運転する車の中でした。

山の中にある実家から毎朝駅まで送ってもらった高校時代結婚の報告も父の運転する車の中でした。寂しそうな笑顔の横顔に涙が出ました。

孫を連れての東北からの里帰り。とびつきの笑顔でハンドルを握ってくれました。

免許返納の時には「無事に返せて良かった。」とほっとしながらも哀しかったのでしようね。

今頃は軽くなった身体と痛みのない足でドライブを楽しんでいることでしょう。

お父さん、本当に今までありがとう。あなたの娘でいられた事を心から幸せに思います。

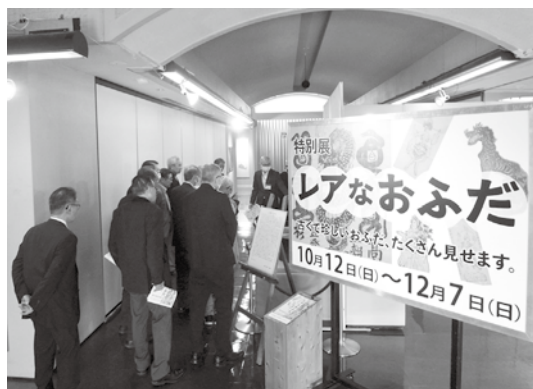
(令和八年二月五日 ご逝去)

年度中の行事報告

地域研修会

令和七年十月二十四日（金）に第十八回地域研修会が飯能市立博物館で開催されました。特別展「レアなおふだー古くて珍しいおふだ、たくさん見せますー」の見学と講演でした。講師は村上達哉主幹です。

オオカミのおふだや蚕神のおふだなど希少なおふだを展示した特別展です。一年経過すると新しくするため、また配っている神社もそれを推奨するため、古いおふだは本来はあまり残っていません。今回市内の旧家からおふだの寄贈をうけ、博物館では信仰に関する重要な資料として位置づけ収集を決めました。平成二十七年と令和六年の二回収蔵品展として取り上



げ多く来館者がありました。そして、今回の特別展の開催へとつながっています。

一 「おふだ」って？

「おふだ」は「御守」「護符」とも呼ばれ、祀る、貼る、所持するなどにより神仏の守護を受け、病気・天災・盗難・火難など、様々な災難を防いだり除いたりすることができるとして信じられてきたものです。

二 明治になって、おふだも変わった！

明治政府による神仏分離政策や、皇室と伊勢神宮の下に全神社を統合する流れにより、おふだやその配布方法が変化したものや、配布元が寺院であったものが、神社へと変化したものがあります。明治時代初頭までは、御師（おんし）により「御祓大麻（おはらいたいま）」というおふだが配布されていたいましたが、明治四年配布が禁止されました。明治五年より神宮司庁が「神宮大麻（じんぐうたいま）」をつくり、政府の事業として全国の各世帯に頒布することとなりました。

三 おふだに見る飯能の地域性

収集したおふだの中には、飯能の地域性を示すものが含まれています。これは①オオカミ②蚕神③山上の霊地④木曽御嶽信仰の四つ

に分類できます。

①のおふだは、オオカミ信仰圏の拠点である青梅・秩父が近傍にあること、②のおふだは、飯能で養蚕が盛んだったこと、③のおふだは、市域に古くからの山岳寺院があること、④のおふだは、木曽御嶽信仰がさかん、という飯能市域の信仰に関する地理的・歴史的特徴が現れたものです。

①神の多様性／オオカミのおふだ／オオカミのおふだは、その多様性に驚かされます。また、デザインが類似するものもあり、そこにはどのような経緯があったのか興味を惹かれます。同じ神社発行のオオカミを絵柄にしたおふだでも時代の変遷によりオオカミ自体のデザインが変化しています。

②混ざり合う女神たちのイメージ／蚕神のおふだ／

蚕神のおふだは、養蚕地域であった飯能ならではのおふだです。そこには、日本神話の神、仏教の馬鳴菩薩、衣襲明神（きぬがさみょうじん）の女神達等様々な神が描かれています。

③飯能の山上の霊地／高山不動・子ノ権現・竹寺のおふだ／

飯能の山地に三ヶ所の山岳寺院があるのは大きな特徴です。比較的近接して位置する三つの霊地は、奥武蔵の山々の神秘的な側面を象徴しています。

④苦境を乗り越えた木曽御嶽信仰／御嶽信仰のおふだ／

御嶽信仰は、飯能では明治の初め頃から盛んになったと言われています。しかし、明治元年の神仏分離と明治五年の修験宗廃止令によって、強い逆風にさらされました。神仏分離により、おふだの名称の変更を余儀なくされ、修験宗廃止令により修験として活動していた御嶽教の指導者たちは還俗を余儀なくされ、御嶽教は大きな痛手を受けました。こうした中、明治二十八年に創建された秩父御嶽神社のおふだが、飯能市内では多く残っています。

四 各地の神社の古くて珍しいおふだ

飯能市内・埼玉県内・埼玉県外三つに分けて様々なおふだが紹介されています。



五 おふだを刷る

市内の商家である田中家が正元年「田中一誠堂」として印刷業を開始しました。昭和五十六年頃まで版木を使っておふだを印刷していたといわれています。数々の版木が展示されています。

○参加者の感想から（抜粋）

- ・お話を伺っている中で、三〇〇枚以上のおふだを一枚一枚丁寧に、すばらしい作業があつたからと改めて敬服しました。うちの神棚にも神宮大麻や吾那神社、御岳神社のおふだをかけた毎日柏手を打っています。おふだをもっとよく見て神様への敬意と感謝を示したいと思いました。
- ・我が家にもあるおふだがこんなに奥の深いものと痛感させられました。
- ・日本人の心の底流にある自然への信仰心や畏怖の念がおふだに現れていると思いました。自分を見直す機会になりました。
- ・種類が多くそれだけ、神仏が一般の家にも受け入れられてきたのだと思う。八百万の神といわれていたが、それぞれに神が宿り、それをその時々敬っていたのだと思う。
- ・私の記憶ですとオオカミのおふだがあります。古い実家にはつてありました。また蚕神の札について

ては、飯能の農家の信仰に関わって、昔の人々の心に触れた思いがあります。おふだから分かる飯能の地域性がおもしろかったです。昔の人々の神仏に対する考え方も今と違ったようです。当時の生活もうかがい知ることができました。飯能の昔の人の想いから現在に至るまでの考えと歴史を知ることが出来ました。

・見ただけではわからないことをその背景を聞くことによって、歴史の深さ、当時の人々の心情も伝わってきて、改めて展示物を興味深く見ることができ、自身の学ぼうという意欲が高まりとても良い研修でした。

・この度の「おふだ」に関わる講話と展示資料の現物、説明を見聞きし、飯能地域の方々が氏子・檀家として、先祖から伝わる「おふだ」を大切に掲げ、神・仏に願われていた姿を、私なりに感じ取らせていただきました。

※「古くて珍しいおふだの数々を堪能することができ、日本人の信仰がもつ特徴や、ひいては日本の特性について一緒に考えていくきっかけになれば嬉しく思います。」と博物館館長が特別展図録のあいさつに記載されています。参加された方々の感想からも、「きっかけ」になった事がわかる研修会でした。

相互研修会

第二十九回相互研修会が令和八年二月二十八日（土）飯能市総合福祉センターにおいて開催されました。小見山実先生と高野満先生を講師として「原市場の森づくり」と題してご講演をいただきました。コロナ禍の為に紙上発表となった高野先生の「原市場の森づくり」。これを何とか活かしたいという小見山先生の想いから実現した講演です。主な柱は①整備する前の山の様子、②山林取得の経緯、③「原市場の森」づくりの活動、④「中一の森」の活動。沢山の写真を見せて頂きながら熱い想いを語っていただきました。

（小見山先生から）

原市場中学校に隣接する山林は、かつて「学校の裏山」と呼ばれていました。

杉や檜、雑木が鬱蒼と茂り下草も生えず、校舎や校庭が日陰となり、一部斜



面の崩落も見られ、教育環境の悪化や安全面から、早急の対策が急務で

した。

私は、平成二十年度から退職前の三年間、隣接する原市場中学校に勤務しましたが、荒れた「裏山」を整備し、より良い環境の下で子供たちに学校生活を送って欲しい、と強く願っていました。

そんな時、PTAや自治会、教育後援会、まちづくり推進委員会の方々が中心となり、山林の取得、整備、活用について話し合いが行われました。

平成二十年九月に山林の取得を飯能市に要請し、翌年、市が市有林として取得することが決まり、「裏山」を「原市場の森」と名付けて、具体的に整備していくことになりました。

平成二十二年度から埼玉県武蔵野の森再生事業の補助金をいただき、約二千本の杉・檜を伐採し、そこに約五百本のモミジ、カエデ、桜、つつじなどをPTAや地域の方々と一緒に、生徒たちも植えていきました。

桜の種類は、ソメイヨシノ、吉野桜、ウコン桜、十月桜、河津桜、枝垂れ桜、銅葉桜、大山桜等多種に及んでいます。

平成二十三年度からは、「原市場の森を育てる会」を地域の方々が中心となって組織してボランティアを募り、毎月第一日曜日の朝に森の整備を行っています。具体

的には五つのプロジェクトに分けています。Aは桜の斜面。間伐された丸太を学習教材とするともに桜の木を植樹する。Bは雑木林。十五年サイクルで体験学習の場とする。Cは遊歩道の整備。Dは校舎に隣接した急斜面の整備。つづじ園になってきています。Eはハイキングコースの整備。

私も退職後、十五年間森の整備活動に参加してきました。荒れ放題の山が、春に桜、つつじなどが咲き誇り、秋には見事に紅葉し、地域の人々の自慢の森に生まれ変わった姿に、感慨深い思いです。「原市場の森」が、これからも地域の森として多くの人の憩いの場になり、末永く愛され続けていくことを願っています。

（高野先生から）

かつてたくさんのお店があり栄えていた原市場も店が途絶え、名栗への通り道になっていた時期がありました。この状況を何とかし



たいと思う人たちがいまいた。また、原市場中学校に隣接した山林も、バブルの頃、

住宅建設業者が取得しましたが、開発が頓挫し、その後次々と転売され、全く手つかずの放置状態でした。この山林整備、活用について有志が話し合い、市と交渉しましたが進展せず立ち消えになっていました。

それが平成二十年に山林に測量が入るという一報を受けて、山林取得への活動を再開することになりました。「原市場まちづくりを進める会」を結成し、山林取得に向けての対策を協議しました。陳情書を作成し市長に提出するとともに、中学校からも要望書を提出してもらいました。市との話し合いを重ね、平成二十一年に山林の一部約四一〇〇㎡を市有林として取得することができました。

中一の森では、雑木林を少しずつ生徒たちが整備しています。下草刈り、間伐、片付け等の作業を通し、山林の手入れや用具の使い方を体験しています。「原市場の森を育てる会」の有志が安全面も含めて指導に当たっています。毎年十月に体験学習として、学校が授業に位置付けてくれた事が大きいと感謝しています。作業終了後感想をいただいています。自分たちの手できれいになった充実感を生徒が感じているのがわかります。また、毎月の作業日には、校長先生や教頭先生も毎回参加して

くださる事にも感謝しています。

この長年にわたる取り組みが、昨年の「全国植樹祭」で表彰を受けるとともに、「関東・山梨ブロック林業グループコンクール」には埼玉県代表として出場し表彰を受けました。

こうした地域と学校が一体となった活動が行われていることは本当にありがたいことです。

○参加者の感想から（抜粋）

・原市場で生活する人たちと原市場という地域の力を強く感じました。平成二十二年の県武蔵野の森再生事業から始まった原市場の森づくりが、十五年経過した今も着実に続いていることは、地域を愛する人たちの熱意と努力のたまものです。

・時々県道沿いから見たり作業後整地植樹後の「原市場の森」の中を歩かせてもらっている。今回の発表を聞いて、現在に至るまでのご苦労に感謝です。

・原市場中の背にある森は気になっていた環境ですが、小見山校長さん、退職校長会の高野さんほか、心ある地域の皆さんと力を合わせて、荒れて手つかずだったこの山を親しみのある花・新緑・秋紅葉の山にしていただき、住民の一人として感動、感謝する一人です。・話に聞き入ってしまった。いい

話を聞きました。人と人との関わり合いの歴史、毎月第一日曜日のボランティア、人知れずのご苦労とご努力、すごいことです。森づくりは人づくり、本当にそう思いました。

・小見山先生、高野先生ご講演ありがとうございました。何かお話を聞いていると、一つの目標に向かってみんなで突き進んでいる様子、すばらしいと思います。

・ボランティア事業を継続するには新しい若い人の力が必要になってきます。今、自治会でも悩んでいるところなんです。すばらしい活動報告ありがとうございます。「森づくりは人づくり」どんな事業もこの言葉どおりと感じました。



文芸

短歌

花を詠む

細田俊雄

裏の土手凜と咲きをり利休梅宗匠の名を誇るが如く

我が背戸に吉祥草が咲きにけりこの花我に幸もたらすや

藪いちげぼつりと咲けり吾妻峽群れ咲き誇る二輪草のなか

金木犀

中山亨

わけもなく心騒がす香するキンモクセイに勝るものなし

アスファルトをオレンジ色に染めておりキンモクセイの花散りし朝

混乱す心の中の透き間にもキンモクセイの香は入り込む

俳句

桜

山下利明

上向きの視線に照れる初桜

花冷えや経木包みの焼き団子

花吹雪重き風鐸鳴らしゆく

写真



「^{おも}想いを^こ込めて」 佐藤信弘

木版画



「あけぼのの森」 澤田清志
8版9摺 25×18cm

木工芸

「木と遊ぶⅣ」
浅見敏彦



編集後記

○会員の皆様や御家族様からの貴重な原稿をいただき、「清脩 第四十六号」を発行することができました。ありがとうございます。

○会報の原稿は、入会順に依頼しているものがあります。入会のない年や人数により依頼や紙面構成が変わってきます。役職定年制度により、入会を決定する時期が明確にならなくなっています。会員の皆様の現役世代への継続した入会のお声かけをお願いいたします。

(伊藤 誠 記)